

アルコールと健康に関する学術情報集 (III) 編集者より

滋賀医科大学社会医学講座教授 上島 弘嗣

アルコールと健康に関する問題は、喫煙対策のように単純ではない。たばこは毒物であるがアルコールは飲み方による。

アルコール飲用と精神・身体への影響に関する研究に関しては、その課題は古くても、常に新しい知見と視点が、時代の変遷とともに求められ、かつ生まれている。アルコール依存症のメカニズムは依然として解明されておらず、医学的観点のみならず、精神的、社会的観点からの研究も必要である。また、わが国では、未成年の飲酒問題が年々その対策における重要性を増しており、その実態を、年次推移を踏まえて捉える必要性のみならず、そのことにいかに対処するかの研究も必要である。

本書の出版は第3回目となるが、アルコールに関する疫学研究からアルコール代謝・薬理学における研究、精神医学領域における研究、等にわたる広範な研究成果を総覧し、疫学、代謝、飲酒行動の3分野に分類して、その要約を文献とともに掲載した。論文の検索はPubMedをはじめとして、できる限り多くのアルコール関連研究が選択されるようにキーワードを設定して検索した。選択された論文について、一つひとつその論文が本書への掲載に必要か否かを判断した。

ここに、関係者の多大の努力に感謝いたしますとともに、本書がアルコール問題に興味ある関係者の方々のお役に立てばと願っています。

上島弘嗣

1971年 金沢大学医学部卒業、その後、大阪府立成人病センター集団検診部、大阪大学医学部公衆衛生学教室、米国ノースウエスタン大学、国立循環器病センターを経て、1989年より滋賀医科大学社会医学講座教授。専門は公衆衛生、循環器疾患の疫学。「健康日本21」計画策定委員会・企画検討委員会委員、厚生労働省「生活習慣病班」の総括班長を務めた。